

## Y18b ADSの種々の活用法

今田 明 (京都大学/鹿児島大学)

ADSは天文学の研究を行う上で必要不可欠なサイトであり、大半の研究者は日々活用している。一方で、その膨大な情報量のため、ADSを通して必要な論文を検索できない事例を多々見かける。

例えば論文を著者検索する場合、[authors]の欄に姓を入力すれば検索可能であるが、first author 検索の場合、姓の前に^(ハット)、last author 検索の場合、姓の後に"\$"を追加することで、より効率良く検索可能である。更に"Require for selection"をチェックすることで、例えば"AをテーマにしたB氏の論文"などを検索可能である。その他、[object]の欄には天体名もしくは天体の座標を入力することで"天体A(もしくはその周辺)をテーマにしたB氏の論文"などの検索をすることもできる。各自の研究テーマに応じた最新の論文ならびに最近多く読まれている論文を週に1回程度の割合でe-mailで受け取ることが可能なサービス(my ADS)なども存在し、使い方次第で研究効率は著しく向上する。

本講演では、国内研究者の論文検索効率の向上を目的に、ADSに備えられた基本的な機能について講演する。